

コリント人への手紙第一 第12章 27節

「あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官です。」

コリントにある教会への手紙からの一文です。色々な人たちが集っていたところです。彼らの間で、横目線での比較から、どちらが優れ、かっこよいのかと争っていたようです。人が集まれば起こりそうなことです。

このみっともない話を聞いて、問題の教会へ送った手紙の一文が最初にあげたことばです。最初のことばが驚きです。「あなたがたはキリストのからだです。」誰が偉いと言いながら反目し合う者たちに、「あなたがたはキリストのからだです。」これを聞くだけでも目が覚める思いではないでしょうか。そして、「ひとりひとは各器官です。」皆キリストのからだの部分ですと聞いて、さらに目が覚めたでしょう。自分がと反目しあう者たちが、どなたのものであり、どなたを現す存在であるのか聞かされます。打ちのめされ、視界が広がったでしょう。

通りに三本の木が新緑をつけて立っています。正面に向かって、右端の木の背が一番低い、真ん中の木立は少し背だけが低い、そして左端の木が一番高くそびえ立っています。三本の木立の新緑がうまい具合につながり、左から右端へと滑らかな弧を描くように育っています。